

2024/02/25 聖餐礼拝

「神の支配に生きる」  
マルコ 1 : 14 - 15

鄭 ヒムチアン

前 奏

賛 美

聖歌 404

祈 禱

主の祈り

神学生挨拶

市川牧人神学生、吉岡福音神学生

説 教

マルコ 1 : 14 - 15 「神の支配に生きる」

おはようございます。今朝は聖餐礼拝です。はじめに神様が私たちに語られたみことばから私たちの生きる指針を頂きましょう。

**マルコ 1 章 14-15 節**

**14 ヨハネが捕らえられた後、イエスはガリラヤに行き、神の福音を宣べ伝えて言われた。15 「時が満ち、神の国が近づいた。悔い改めて福音を信じなさい。」**

本日読みました箇所はイエス様がその公生涯を開始された時のことを記した箇所です。そのはじめは、今日読んだみことばにあるようにガリラヤで神の福音を宣べ伝えたということでした。「神の福音」とあります。福音という言葉が良い知らせ (good news) であることは皆さんよくご存知であると思います。その前に「神の」という言葉があります。つまり神様がなさろうとしておられること、神様が現に行っておられること、それが人にとって良き知らせであり、その良き知らせをイエス様は人々に向かって伝えられたのです。この宣べ伝えたと言われている言葉は原語では「ケリュツソー」という言葉が使われていますが、これは事実を宣告するという意味です。つまり、ここにおいてイエス様はすでに決まった事実を公に告げ知らせることをなさっておられるのです。

それではその神の福音とはどういうことなのか。つづく 15 節に記されているイエス様が語られたことばにその神の福音の内容が明らかにされています。15 節前半にこのように記されています。「時が満ち、神の国が近づいた。」非常に短い言葉ではありますが、ここに神の福音とは何かということが告げ知らされています。一つずつ見てみましょう。

まずイエス様は「時が満ち」と語られました。時が満ちるということに理解する助けとして一つイメージを浮かべて頂きたいのですが、コップに水を注ぐという動作です。コップに水

を注いでいくとコップが満杯になるタイミングがあります。コップが満ちた瞬間です。またこのコップが満ちるためには水を加えてきたという経緯があります。その経緯があつて満ちる時がやってきます。

イエス様が言われた「時が満ち」というのは、決定的な時が来たということです。そしてこの決定的な時のためにそれまでに備えられてきた経緯があつたのです。もちろんそれはコップに水が注がれるような短い備えではなく、非常に長い時をかけて備えられてきた決定的な時です。例えば今日読んだ箇所である 14 節のはじめにおいても、バプテスマのヨハネが捕らえられた後、イエス様がガリラヤに行つて福音宣教をはじめられたとあります。これは漠然と流れる時の中で突如起きたことではなく、イエス様が明確な時への意識をもって福音宣教をはじめられたということです。イエス様が福音宣教をはじめられるためには、バプテスマのヨハネが荒野で主の道を備えるという働きが必要だったのです。それだけではありません。バプテスマのヨハネが来るはるか昔から神様はご計画をもつてこの時が満ちるためにあらゆる方法を用いて、歴史の中に介入され、備えて来られたのです。旧約聖書がそのことを私たち証ししています。その備えによって時が満ち、この決定的な時がやってきたのです。それでは何ゆえこの時が決定的なのでしょう。それは人類のために約束された救い主が来られ、福音が告げ知らせたからであります。

イエス様は「時が満ち、神の国が近づいた」と言われました。この「神の国が近づいた」という言葉こそ福音をあらゆる重要な言葉であります。「神の国」と訳されている言葉ですが、直訳すると「神の王国」となります。神が王として統治し、ご支配される国が来たということです。つまり、イエス様は神のご支配のもとに入ると人々を招いておられるのです。

では何故この神のご支配される国への招きが福音、良い知らせなのでしょう。もちろん神様の支配に生きることは人にとって祝福以外の何物でもないでしょう。ですが具体的に何において良い知らせであるのでしょうか。一つはこのような捉え方があると思います。それはイスラエル王国が再び立てられるという意味での良い知らせです。イエス様が福音を宣べ伝えられたこの当時というのは、ユダヤの民たちはローマ帝国の支配下に生きていました。さらに過去を振り返るとかつてダビデとソロモンの時代に栄華を極めたイスラエル王国はその後南北に分裂し、やがて北イスラエルはアッシリアに、南ユダはバビロン帝国によって滅び、捕囚の民として生きてきた歴史がありました。そのように流浪の民として生きてきた民たちにとって、再びイスラエルが再興されるということは強く望んでいた良い知らせだったことでしょう。

しかしイエス様がおっしゃった神の国とはそのようなものであったのだろうかと思うとそうではないと思います。たとえばヨハネ 6 章 15 節では「**イエスは、人々がやって来て、自分を王にするために連れて行こうとしているのを知り、再びただ一人で山に退かれた。**」

と書かれており、イエス様はご自分を王にしようとする人々の情熱的な行動に対して、むしろそこから立ち去るという反応をなさいました。福音書のその他の箇所においてもイエス様のこのような行動をみることができます。つまり、イエス様が言われた良き知らせとは、人々を他国の支配から自由にする政治的な解放ではなかつたろうと思うのです。

ではイエス様が語られた神の国の福音とは何において、良き知らせなのでしょう。結論を言いますと、それは人々を悪魔、サタンの支配から解放し、神の支配に生きるようにしてくださるという意味で良き知らせなのです。悪魔、サタンの支配から解放される救いの時がきたという良い知らせです。これは実際イエス様が何をされたかということのみことばから見ること確かめることができます。

本日の箇所の直前であるマルコ 1 章 12-13 節を御覧ください。ここにはイエス様が福音宣教をはじめられる前にどこで何をされていたかが記されています。

### マルコ 1 章 12-13 節

**12 それからすぐに、御霊はイエスを荒野に追いやられた。13 イエスは四十日間荒野にいて、サタンの試みを受けられた。イエスは野の獣とともにおられ、御使いたちが仕えていた。**

イエス様は福音宣教をされる前に、荒野で 40 日間断食をし、そしてサタンの試みを受けられました。12 節には「御霊はイエスを荒野に追いやられた。」と書かれていますが、サタンがイエス様のところにやってきたのではありません。御霊がイエス様を荒野へ追いやり、サタンの試みを受けさせたのです。この試みの詳細についてマタイ、ルカともに 4 章に記されています。イエス様がこのサタンの試みに勝利されたということが記されています。

サタンの試みに勝利された後、イエス様は今日のみことばをお語りになって福音宣教をはじめられました。さらにその後イエス様が何をなさったかについても見てみましょう。本日の箇所の後、イエス様は弟子たちを呼び出されます。そしてその後の 21-27 節を御覧ください。

### マルコ 1 章 21-27 節

**21 それから、一行はカペナウムに入った。イエスはさっそく、安息日に会堂に入って教えられた。**

**22 人々はその教えに驚いた。イエスが、律法学者たちのようにではなく、権威ある者として教えられたからである。**

**23 ちょうどそのとき、汚れた霊につかれた人がその会堂にいて、こう叫んだ。**

**24 「ナザレの人イエスよ、私たちと何の関係があるのですか。私たちを滅ぼしに来たのですか。私はあなたがどなたなのか知っています。神の聖者です。」**

**25 イエスは彼を叱って、「黙れ。この人から出て行け」と言われた。**

26 すると、汚れた霊はその人を引きつけさせ、大声をあげて、その人から出て行った。  
27 人々はみな驚いて、互いに論じ合った。「これは何だ。権威ある新しい教えだ。この方が汚れた霊にお命じになると、彼らは従うのだ。」

イエス様は何をされたのでしょうか。悪霊を追い出されたのです。実際に、サタンの支配に囚われている人を解放されました。

はじめの人アダムとその妻エバがエデンの園で蛇に誘惑され、罪に陥って以来、誰一人サタンの試みに勝つことはできませんでした。人類は誰一人残らずサタンの支配下に捕らえられ、その支配から逃れることはできなかつたのです。しかし、時が満ち神のひとり子であるイエス様が人としてこの地上に来られ、誰一人勝つことのできなかつた悪魔の誘惑に勝利し、悪霊を追い出して悪魔の支配から解放し、神の支配される国に入ることができるように道を開いてくださったのです。これこそ福音、良い知らせなのです。

「時が満ち、神の国が近づいた」と福音を宣べ伝えられたイエス様は続けて「悔い改めて福音を信じなさい。」と言われました。前半部の「時が満ち、神の国が近づいた」という言葉は完了形で書かれています。つまり、これはすでに起きた事実を宣言された言葉です。しかし、それに対して「悔い改めて福音を信じなさい」というこの続く言葉は、現在命令形です。すなわち救いの時が来たのだから、今悔い改め、今福音を信じるようにというイエス様からの要請、命令の言葉なのです。

悔い改めるとは考えを変えて、立ち返るということです。本日ともに見てきたイエス様が語られた福音のことばからこの悔い改めるということを考えますと、サタンの誘惑に従ってその支配に生きることから方向を変えて、神の支配に生きる者となりなさいということでしょう。悔い改めには後悔や反省、悲痛の涙が伴うことがあります。しかし悔い改めの本質はそこではありません。悔い改めの本質は神への方向転換、つまり生き方の変化があるということです。これまでは自分で自分の生活を支配していたのを、神様のご支配にお委ねしますと自分を明け渡して生きる。これこそが、悔い改めなのです。しかし、悔い改めは人間が起こせるものではありません。神の霊、聖霊がなされる神のわざです。しかし人がそれを求めることさえもしないのであれば、すなわち神様に向かって心を閉ざしてしまうなら、聖霊は私たちの中で働くことはできないのです。黙示録においてイエス様はラオディキアの教会にこのように伝えられました。

### 黙示録 3 章 19-20 節

3:19 わたしは愛する者をみな、叱ったり懲らしめたりする。だから熱心になって悔い改めなさい。

3:20 見よ、わたしは戸の外に立ってたたいている。だれでも、わたしの声を聞いて戸を開

けるなら、わたしはその人のところに入って彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする。

福音とは悪魔の支配から解放され、神の支配の下で生きることができるという良い知らせです。そしてイエス様はこの福音を信じなさいと言われております。私たちは聖書のことばを通してこの悪魔の支配からの解放と神のご支配の確かな成就が主イエスキリストの十字架での死と復活によってなされたことを知らされています。つまりイエス様ご自身が福音として来られ、福音を確かなものとされたのです。福音を信じるということは、このイエス様の十字架での死と復活がまったくもって自分のためである、つまりイエス様こそ私の救い主であると信じきって疑わないことです。そして信仰によって人は罪の赦しと死んでも生きる永遠のいのちの与えられると約束されています。ですから福音を信じている人は罪からの解放による自由と神の支配の中で永遠に生きるという喜びが溢れるのです。

「福音を信じなさい」とイエス様は言われました。イエス様ご自身がこの「福音」ということばを用いて語られたということを知りたいと思います。つまりイエス様は良い知らせとして人々に、そして私たちに語ってくださったということです。そこにおいて私たちが考えたいことがあります。それは私にとって福音が本当に「良い」知らせになっているかということです。むしろこの世の中で順風満帆な生活をもたらしてくれるあらゆる知らせが私にとって良い知らせとなっていないでしょうか。サタンはその誘惑をもって私たちに支配し、滅びへと導くのです。私たちの生活の中にいまだサタンの支配の中で生きている領域があるでしょうか。そこから出たいと願っているでしょうか。救われたい！と願っているでしょうか

神の独り子であるお方がこの地上に来てくださり、私たちに良い知らせを伝えてくださいました。「時が満ち、神の国が近づいた。」そして私たちに求めておられます。「悔い改めて福音を信じなさい。」

お祈りをいたします。

## 聖餐式

みことばから悪魔の支配から解放され、神の支配の下で生きることができるという良い知らせを聞きました。これからこの良き知らせを確かにしてくださった主イエス様を覚える聖餐式を執り行います。

かつてこの良い知らせを全世界に広め伝えるために選ばれた使徒パウロは、使徒となる以前はむしろイエスを救い主として信じるクリスチャンを迫害する者でありました。しかし、

ダマスコへの途上において、彼は迫害していたイエス様ご自身に出会い、彼の人生は変えられます。その時にイエス様がパウロに伝えられた言葉が使徒の働き 26 章 17-18 節にこのように記されています。

26:17 わたしは、あなたをこの民と異邦人の中から救い出し、彼らのところに遣わす。

26:18 それは彼らの目を開いて、闇から光に、サタンの支配から神に立ち返らせ、こうしてわたしを信じる信仰によって、彼らが罪の赦しを得て、聖なるものとされた人々とともに相続にあずかるためである。

目が開かれ、サタンの支配から神に立ち返り、イエスキリストを信じる信仰によって、罪の赦しを得、聖なるものとされた人々とともに相続にあずかる。まさに今日みことばから学んだことがここに凝縮されています。これから聖餐を通して、私たちは主の御体と血潮にあずかりますが、願わくば聖霊が豊かにご臨在くださり、私たちがなお一層この良き知らせへの信仰を堅くし、主のご支配の中で生きることができるようになります。

聖書朗読     マタイ 26 章 26-29 節

26 また、一同が食事をしているとき、イエスはパンを取り、神をほめたたえてこれを裂き、弟子たちに与えて言われた。「取って食べなさい。これはわたしのからだです。」

27 また、杯を取り、感謝の祈りをささげた後、こう言って彼らにお与えになった。「みな、この杯から飲みなさい。」

28 これは多くの人のために、罪の赦しのために流される、わたしの契約の血です。

29 わたしはあなたがたに言います。今から後、わたしの父の御国であなたがたと新しく飲むその日まで、わたしがぶどうの実からできた物を飲むことは決してありません。」

招きの言葉

聖別の祈り

分     餐

受     餐

祈     り

賛美・席上感謝献金     聖歌 520

感謝祈禱     感謝の祈り    I 飯沼優 役員    II 猪又晃 役員    III 古川由香 役員

報告 (第三は紹介と報告)

頌     栄     2024 年 テーマソング

祝     禱

後     奏

紹介と先週の出来事 (第一、二)